

第 50 回日本臨床細胞学会総会

子宮がん集団検診要精検者の経過観察における HPV 検査の意義

(財) 福島県保健衛生協会¹⁾, 慈山会医学研究所附属坪井病院婦人科²⁾,
公立大学法人福島県立医科大学医学部産科婦人科学講座³⁾

○ 佐藤奈美(CT)¹⁾, 寅磐亮子(CT)¹⁾, 佐藤美賀子(CT)¹⁾, 柴田眞一(CT)¹⁾,
菅野 薫(MD)¹⁾, 森村 豊(MD)^{1) 2)} 添田 周(MD)^{1) 3)}, 藤森敬也(MD)³⁾,
山田秀和(MD)³⁾, 佐藤 章(MD)³⁾

【目的】 子宮がん集団検診の要精検者と HPV 検査結果について検討し、その経過観察時の転帰と HPV との関連を明らかにすることを目的とした。

【対象および方法】 2007 年度要精検者 (407 名) のうち、初回精検時に HPV 検査 (HC2) を実施し、組織学的検索を行った 220 名を対象とした。HPV 検査の感度、特異度等を算出し、さらに経過観察時 (7 か月~15 か月) の転帰について要治療群、異常細胞消失群、経過観察群の 3 つに分けて比較検討した。

【結果】 全体の HPV 検査の陽性率は 76.8% で、HPV 検査の感度は >CIN3 の病変で 80.0%、<CIN2 病変の特異度は 35.2% であった。陽性反応的中率は、>CIN3 の病変で 19.5%、<CIN2 病変の陰性反応的中率は、84.3% で特にクラス IIIa では、93.0% であった。また、経過観察の結果、HPV 陽性 169 例中、要治療群は 18.9%、異常細胞消失群 34.9%、経過観察群 45.6% で、HPV 陰性 51 例においては、それぞれ 17.6%、54.9%、27.5% であった。HPV 陰性例は、HPV 陽性例に比較し異常細胞消失の割合が有意に高かった。(p = 0.007)

【まとめ】 子宮がん集団検診の要精検者と HPV 検査結果について検討し、その結果、CIN3 以上の病変に対する感度はやや低い傾向を示した。しかし、HPV

陰性例では CIN2 以下の陰性反応的中率は高く、さらに HPV 陽性例に比較し異常細胞の消失が有意に高いことから、本検査では、経過観察の要，不要の選別に有用と思われた。